

## E-22 迷信俗信に対する態度の分析的考察特に 男女について

岡崎女短大 水鳥 ちよ

1. 生活においていろいろのしきたりが大きな影響をおよぼしていることは、明らかである。とくに家庭は古いしきたりが比較的多く伝えられるところといえる。それらのしきたりの中で、いわゆる迷信俗信的なものは、現在においても無視しえぬ力を持っていると考えられるので、その実態を調査し、生活をいとなむ上での参考に資せんとする。

2. 愛知県下の臨海の一町村をえらんで、その住民についてアンケート法により、いろいろの迷信、俗信といわれているものについての態度をしらべ、それを性別、年齢別、学歴別、宗教別等に分けて集計分析した。本報告では時間の関係上、そのうちの男女のちがいを中心としてしらべた結果に限った。

3. 一般的に女性は男性より迷信に対し、否定的態度が少ないという傾向が見られる。特に50歳以上の女性は否定率が少ないが、それは必ずしも積極的肯定率が高いという結果になってあらわれてはいない。それらについて問題別、年齢別に分析した結果や肯定や否定の中間の「半肯定」や「わからない」等の項目にあらわれた比率を照合しつつ述べる。